

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (一財)千葉県環境財団業務部
 環境活動支援課気付
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



千葉市地域環境保全自主活動補助金事業 環境講座

国立環境研究所江守正多氏講演会『気候変動リスクと人類の選択』報告

10月15日(木)、国立環境研究所 江守正多氏 (IPCC 第5次評価報告書共同執筆者) による講演会『気候変動リスクと人類の選択～IPCCの最新報告から～』を千葉市生涯学習センターにおいて開催し、90名近い方にお越しいただきました。

講演では、温室効果ガス濃度と世界平均気温・海面水位は20世紀に入り急速に上昇しているという事実を踏まえて、人為起源の要因によるCO₂の増加が地球温暖化につながることで、それによるリスクの全体像とリスク対策に当たって以下の考え方を伺いました。

『地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』

地球温暖化対策は従前から、温室効果ガス排出の削減をはかる『是正策』として、機器の効率化・スマート化・行動や制度の見直し等をトータル的に駆使した“省エネ”に重点が置かれていた。しかし地球温暖化の現況を考えると、既に起こっているあるいは将来予測される気候変動及びその影響に対して、損害を和らげ、回避し、又は有益な機会を生かそうとする『適応策』を合わせて実施する必要がある。

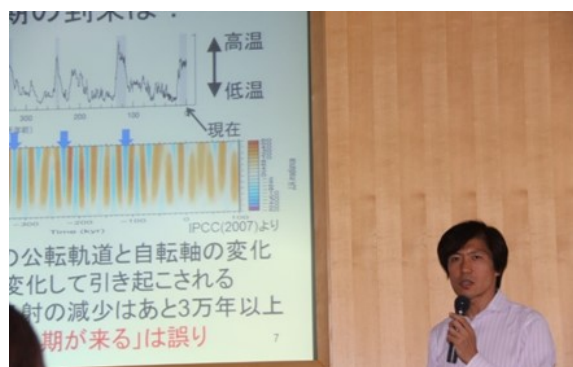
地球温暖化リスクは対策をしなければ進行するのは確かだが、やらないよりやったほうが良いといった単純なことでは済まされないことを基本に、それぞれの悪影響と好影響を全体像でとらえる必要がある。『最終手段は気候工学』と言われるが、それをそのまま受け入れるのではなく慎重な検討が必要。例えば「エアロゾル散布」により日射を遮る太陽放射コントロールによる対策は低コストというメリットはあるが、地球全体で見れば気温分布や水分分布などに副作用が生じる等、別のリスクが新たに発生することを覚えておくべきである。地球温暖化解決のカギは“技術”だけでなく“社会変革”の検討を同時に進めること。省エネを例にとると、技術(エコカー等、機器の効率改善による実現)と、社会変革(車に乗らないライフスタイルの選択、所有から利用へ・・・等)を合わせて検討することが重要。

日本ではエネルギーミックス(電源構成)が検

討されているが、化石燃料と原発(再稼働)に高いウエイトが置かれているが、再生可能エネルギーをもっと積極的に導入すべきではとの質問には、「石器時代の終わりは、石がなくなったからではなく、石に代わる材料を手に入れたから」という印象的な回答をいただきました。江守氏の講演を通じ問題の原点を確認し、私たち一人ひとりができることを考えるまたとない機会となったと思います。

この「だより」106号が皆さまに届くころは、パリで気候変動枠組み条約締結国会議 COP21 が開催中で、2020年以降に温室効果ガス排出を減らすために各国の取り組む新しい枠組みが話し合われていることと思います。江守氏は、『産業化以降の気温上昇を2℃以内に抑えることの意味を世界の政治家は分かっている』と話されました。その経過と結果に注目したいと思います。

(文責 川島謙治)



気候変動関連リスクを「全体像」で捉える

気候変動の悪影響 <ul style="list-style-type: none"> 熱波、大雨、干ばつ、海面上昇 水資源、食料、健康、生態系への悪影響 難民・紛争増加? 地球規模の異常? 	気候変動の好影響 <ul style="list-style-type: none"> 寒冷地の温暖化による健康や農業への好影響 北極海航路
対策の悪影響 <ul style="list-style-type: none"> 経済的コスト 対策技術の持つリスク(原発など) バイオマス燃料と食料生産の競合 急激な社会構造変革に伴うリスク 	対策の好影響 <ul style="list-style-type: none"> 気候変動の抑制、悪影響の抑制 省エネ エネルギー自給率向上 大気汚染の抑制 環境ビジネス

悪影響、好影響の出方は、国、地域、世代(現在⇄将来)、社会的属性(年齢、職種、所得等)によって異なる。

〈当日配布資料より〉

講演会「気候変動リスクと人類の選択 ～IPCCの最新報告から～」に参加して 千葉工業大学大学院 清水麻里

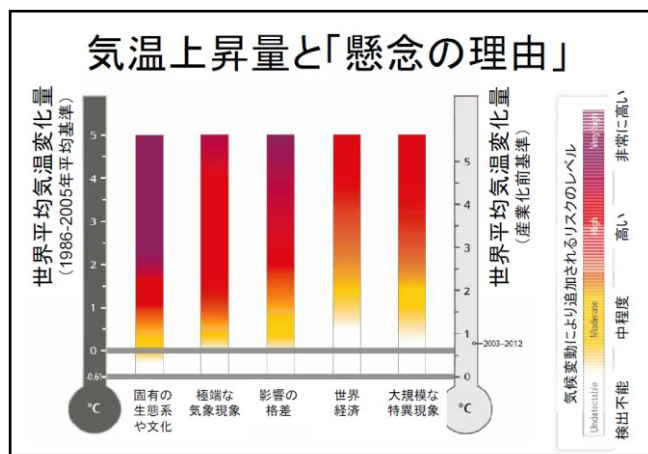
10月15日に行われた江守正多さんの講演会「気候変動リスクと人類の選択～IPCCの最新報告から～」に参加しました。私は大学で環境について学んでおり、気候、特に地球温暖化などについても勉強をしています。今回の講演会に参加したのも、そのことがきっかけなのですが、講演会の内容には知っていたようで知らなかったことがたくさんあり本当に勉強になりました。

講演会の中で特に印象に残っているのが、どこまで地球温暖化を受け入れるのか、というお話です。気候変動により追加されるリスクのレベルについて、固有の生態系や文化、極端な気象現象、影響の格差、世界経済、大規模な特異現象、これら5つを比較しています。地球温暖化と聞けば、気温の上昇など身近な気象現象を考えてしまいがちですが、もっと広い視野を持ち考えていくことが必要だと改めて感じました。また、気温が1℃上昇することで、固有の生態系や文化はリスクの追加されるレベルが1段階あがるのに対し、世界経済はあまり影響を受けない、などといった違いもありました。

今までは、気候変動により様々な影響がでる、といった漠然としたとらえ方しかしていません

したが、具合的な数値や項目により気候変動の影響がでる段階が異なることを学びました。また、ひとつひとつの項目の分析結果に加えて、それらを集め比較し総合的に判断することの重要さも感じました。

CO2削減のために今まで行動してきたことは少ないですが、これらの知識を伝えて多くの人に知ってもらうことでさらに貢献できれば、と思います。



IPCC WG2 AR5 より 15

千葉市地域環境保全自主活動補助金事業 環境講座

『地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』

「地球温暖化で異常気象は増える？」講演会と意見交換会のご案内

環パちばでは今年度、『市民が地球温暖化問題について学び、きちんと向き合い、真剣に考える』ことが重要と考え、千葉市地域環境保全自主活動補助金事業として3つの環境講座を企画し実施しています。既に『企画①』、9月23日“エコメッセ2015inちば”の環パブースで、矢野良明氏(元気象庁天気相談所職員)による「親子で体験～お天気の不思議～&お天気相談室」を実施し、『企画②』を10月15日(木)国立環境研究所 江守正多氏の講演会を開催しました。

企画の締めくくりとして、平成28年1月31日(日)10:00～12:00、千葉市生涯学習センターにおいて、『企画③』としてIPCCリポートコミュニケーター 矢野良明氏(元気象庁天気相談所職員 防災士)から「地球温暖化で異常気象」をテーマに、近年頻発する異常気象現象の仕組みと地球温暖化の関係をお聞きします。講演後には、

会場の皆様と地球温暖化に対し、『すぐできること』や『実効ある対策』等を意見交換し、地球温暖化に対し私たちにできることを共有したいと考えています。皆様のご来場をお待ちしています。

会費：資料代 300 円

申込：

moushikomikishou@kanpachiba.com

FAX 047-246-6969(千葉県環境財団気付)

(文責 川島謙治)

エコセミナー開催のご案内

千葉県は、次世代エネルギーとして期待されている水素普及の啓発のために、水素に関する県民の理解を深めることを目的とし、水素をテーマとしたエコセミナーを以下の日程で開催することになりました。内容は、講演と「MIRAI」の試運転も行います。水素社会について学び体験できるセミナーですので、是非ご参加の程よろしく願いいたします。

日時：平成28年2月10日（水） 13：30～16：30

会場：千葉県環境研究センター（市原市岩崎西1-8-8）

参加費：無料

定員：100名

内容：

「水素社会の実現に向けて」 講師：岡野 一清 氏

元九州大学大学院客員教授・一般社団法人水素エネルギー協会顧問

「燃料電池自動車について」 講師：白野 哲 氏

トヨタ自動車株式会社 流通企画部関東・四国地域統括部長

「家庭燃料電池（エネファーム）について」 講師：房総ガス協議会

「千葉県における燃料電池自動車の導入について」

講師：千葉県環境生活部循環型社会推進課

試運転・写真撮影：試運転希望者は、申し込みしてください

※試運転申し込みが多数の場合は、抽選となります。

申し込み締切：平成28年1月31日 ※定員を超えた場合は、抽選となります。

主催：千葉県 実施団体：環境パートナーシップちば

【問い合わせ・申し込み先】

千葉市中央区中央港 1-11-1 （一財）千葉県環境財団 業務部環境活動支援課気付
環境パートナーシップちば TEL：090-8116-4633 FAX：043-246-6969

e-mail：moushikomi@kanpachiba.com HP：http://kanpachiba.com/

報告：千葉市新宿公民館における環境教育講座

「簡単省エネ！光熱費節約が地球を救う」

11月17日、千葉市新宿公民館主催講座「ミセスほえみ学級（全7回）」の5回目「簡単省エネ！光熱費節約が地球を救う」が開催され、広田・川島・小倉の3人が講師として担当しました。当日の参加者は8名。人数はさほど多くはありませんが、全員が省エネをしている、興味があるという熱心な方々です。

「省エネの意識づけ」として、地球温暖化問題や異常気象についての話題の後、「あなたはどのタイプ？」と書かれた省エネチェックをしてもらいました。すると、ほとんどが“お得な省エネライフ型”に分類されていました。自分たちの代よりも、子や孫の世代に地球を残すためにも省エネは必要です。具体的に、どうやって家庭での省エネを行うのか、私の体験を交えつつ検針票の見方や環境家計簿の話題もとりまぜて説明をしました。千葉市は、カレンダーになっている環境家計簿を配布しています。

後半は、より具体的な行動を省エネかるたで学

びました。「えっ！水って、けっこう節約効果が高いのね。」「これは知らなかった。今までもないことをしていた。」いろいろな声が飛んできました。みんな、楽しそうです。

最後にアンケートにこんなことを書いてくれた方がいました。「ふだんにげなく毎日過ごしていたのですが、今日は大変よかったです。エコすることは、自分のためにもなり地球全体にもかかわっていくこともよかったです。今日改めて環境のことについて新しく学ぶことができよかったです。カルタでの、遊びも大変楽しかったです。」こんな言葉をいただくと、私たちもうれしくなります！どうもありがとうございました。



（文責：広田由紀江）

“第5回 Eボート千葉大会～ハーバーシティ蘇我～”

に参加しました！

印旛沼から昨年場所をハーバーシティ蘇我に移して開催されるEボート大会も、今年で5回目とのこと。我が環境パートナーシップちばは、今年は「ごきげん環パGO!GO!」というチーム名で参加しました。直前に当団体主催の地球温暖化に関する江守正多氏の講演会があり、その流れで広田氏手作りの環境講座用グッズ「シロクマ帽子」をボートの漕ぎ手全員がかぶることに決まり、なんとなく切り貼り感満載で迎えた大会でした。

1995年に水辺を楽しむツールとして誕生したEボートの“E”には、Everybody(だれでも)、Easy(簡単に)、Enjoy(楽しむ)、Exchange(交流する)、Eco-life(エコライフ)、Environment(環境)、Emergency(緊急・非常時)など意味が込められ(Eボート公式サイトより)、今大会で使用するボートも、決壊した鬼怒川の被災地で活動してきたばかりとのことでした。

さて、いかにも運動音痴な我々でしたが、応援に駆け付けてくださったハートキッズプロジェクトの小西氏から、初歩的なライフジャケットの着方からレースの作戦まで丁寧な指導を受け、折り返しのある200mのコースを1分台でゴールす

ることができ、おまけにシロクマ帽子のおかげで「コスプレ賞」を受賞することができました。

私は後日、体中の筋肉痛に襲われました。メンバーと息を合せ全身を思い切り使って、ようやく“レース”になるということなのでしょう。

ところで「地球号」というボートはどうでしょうか？温暖化、異常気象、頻発する大規模自然災害。この状況に対し、我々は叡智をもってボートをこぎ続けることができるのでしょうか？環境とは自然のことだけではなく、政治、経済、文化諸々も含む包括的なもの。ではそこで人類は、日本人は、そして一個人は、実際に「何を」「どう」「できる」のでしょうか？(文責：中村明子)



第13回 印旛沼流域環境・体験フェア

千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議主催の印旛沼流域環境・体験フェアが佐倉ふるさと広場の向かい側で10月24日(土)、25日(日)の2日間にわたり、開催されました。

環境パートナーシップちばは24日(土)に昨年度と同様、千葉市・八千代市と同一のブースで、①私の家の水循環 ②外来生物を知る ③ナガエツルノゲイトウ駆除活動紹介をしました。また、今年はブースのポールに、青竹の節に花入れを設え、コスモス、キク、ホウキ草などの秋の花々を飾り、お客様をお迎えしました。

①「私の家の水循環」は、クイズ形式で行いました。まず、住んでいる場所を、千葉県の給水分図にシールを貼ってもらい、自宅で使用している水道水の水源をご存知かと聞きました。次に、千葉県の下水道図を見ていただき、「家庭で使った汚水の放流先を知っていますか？」と尋ねました。お客様からは、「え～！水道水は川の水と地下水でブレンドされている」「利根川の水を飲んでその水がまた利根川にもどる」「今後もアクリルタワシを使い洗剤の使用は少なくします」「県内には下水道が整備されていない地域がこんなにある」「下水処理場の放流先が東京湾に集中して生態系への影響が気になる」などでした。

こちらからは、家庭の水循環の仕組みと水源の大切さ、印旛沼の水質改善にご協力しましょう、などお伝えしました。また、お客様には来年度への期待も込め「ゴーヤの種」を差し上げました。

② 外来生物を知るコーナーでは、「外来種から日本の自然を守ろう」のパネル展示と「外来生物入りの魚釣りゲーム」を行いました。お子さんたちは、「僕いっぺんに2匹つり上げた！」「僕のはザリガニだ！」と歓声をあげ、楽しんでいました。

③ ナガエツルノゲイトウ駆除活動紹介では「印旛沼に増え続けるナガエツルノゲイトウQ&A」のパネル展示を行いました。お客様のほとんどはナガエツルノゲイトウという名前は初めて聞いたし、見たこともないと話されていました。特に印旛沼流域の市民の皆様には広く知っていただく必要があると痛感しました。



(文責 高瀬充子)

手賀沼流域フォーラム全体会に参加して

10月17日に「2015年 第19回手賀沼流域フォーラム全体会」が手賀沼親水広場で開催された。

手賀沼親水広場は平成27年7月1日に千葉県から我孫子市に移管され、水の館も我孫子市の施設として、水環境保全啓発施設だけでなく農産物直売所としても改装されるため、研修室は講演会場としては最後のお役目となった。

手賀沼流域フォーラムは、流域の7市や市民活動団体、手賀沼水環境保全協議会の実行委員が運営し、流域の各地で様々な企画（地域企画：2015年度は28回）を通して手賀沼の魅力や環境保全などについて広く伝えるとともに、手賀沼の生物多様性の状況について調査を行っている。事務局は美しい手賀沼を愛する市民の連合会（通称、美手連）である。

全体会は二部構成であった。まず、県立柏中央

高等学校科学部による「美しい手賀沼をめざして」と題して、3名の生徒さんにより① 車軸藻類のテガママフラスコモの研究、② 美しい手賀沼をめざして、③ 簡易比色計の製作と水質分析 が報告された。顧問、元顧問の先生お二人も科学部創設からの歴史やご自身の手賀沼との関わりを熱く語られた。

第二部は、滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課長の小松直樹さんの講演「琵琶湖の保全から学んだ経験と、滋賀から世界への発信」で、琵琶湖の抱える課題と取り組みを紹介してくださった。どれも千葉県が見習いたい話であったが、特に学習船「うみのこ」を使って県下の小学5年生全員が琵琶湖で1泊2日の宿泊体験型の学習を行っていることと、戦後の食糧増産のために干拓した内湖を再び湿地に戻し、漁場再生に取り組んでいるということに感銘を受けた。（文責 小倉久子）



ロビーではナガエツルノゲイトウ調査結果を展示・説明



小松氏による講演

首都圏のオアシス手賀沼大会 in Kashiwa

平成27年10月30日柏市民文化会館にて「首都圏のオアシス手賀沼大会 in KASHIWA」が開催されました。参加の報告と主催者の利根川流域交流会のご紹介をいたします。

基調講演「手賀沼と通水 16年目の北千葉導水路」は、長年柏日体高校の教諭として生徒と歩き、手賀沼の「光と影」を教材化された、相原正義氏（現在中央学院大学講師）によるお話でした。「手賀沼の干拓と汚濁」では、手賀沼の面積変化と農業・干拓・都市河川による汚濁と汚染の話、「北千葉導水路の課題」では横に連なる首都圏の河川・着工から建設まで・工事費用・計画段階の公開状況の話、「手賀沼の汚濁・汚染への地域住民の取り組み」では手賀沼流域に生きる人々の関心と特権で負をテコにより良き地域をつくと多面的、重層的な各取り組みを紹介した上で、若者にどう引き継ぐか・教育現場での興味ある授業づくりが課題などの長年手賀沼流域を見つめて来られた相原氏からの分かりやすく興味深いお話でした。

次に手賀沼トラスト活動・郷土史・農と食・筑後川・吉野川の視点から各パネラーによるお話と

ディスカッションがありシンポジウムは終了しました。

同日夕方に会場を移動して筑後川・吉野川からの参加者も交えての「兄弟三河川大交流会」翌日にはバスによる「手賀沼現地見学会」と盛りだくさんな大会でした。

利根川流域交流会とは、利根川流域圏の歴史・文化・経済・観光等それぞれの地域の個性・特性を尊重しながら、地域の活力増進と流域の振興を目的に上下流での事例に学び、顔の見える関係の構築、市民を軸に有識者・行政の三位一体で進め、他河川との文化交流も深めながら進めるという意欲的な会です。11月14日には「利根川に学ぶ『舟運・物流、巴波（うずま）川が運んだ文化と市民の暮らし』 栃木市巴波川セミナー」が開かれる予定で今後の活動も楽しみなところです。（文責：横山清美）



東京湾大感謝際～海は街も森も友達！

東京湾大感謝祭は、都市に住む市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として、2013年秋に初開催され、2014年10月には、横浜赤レンガ倉庫とその周辺海上の会場に移され、82,000名の市民や企業、団体、国、自治体の関係者が参加する大イベントになりました。

東京湾大感謝祭2015は、10月24日25日の開催と印旛沼流域環境フェアと日程が重複していましたが、25日に参加してきましたのでご報告します。

写真の手前のイベント広場では、テーブルとイスが置かれステージを見たり、左倉庫側のテントの江戸前フードゾーンの美味しい海の幸が味わえるようになっていました。展示ブースでは企業や市民団体の体験にどこの人も参加できるようになっていて、楽しそうに体験する市民で賑わっていました。

ステージの背後の赤レンガ倉庫内の「知ろう・学ぼう！海の遊び場」でも、体験型イベントに多くの人に参加されていて、体験づくしの大感謝際でした。

この一角で「海的环境学習・教育交流会」があり、私も参加してきました。東京湾は背後に大都市を抱え、沿岸住民は3000万人とも言われ、私たちの

生活とともに排出される生活排水やゴミ、さまざまな産業が与える環境負荷などが、赤潮の発生や水産動植物に大きな影響を与えるなどの多くの問題が発生しています。これらの解決に向かう学習にしていくことを共有して、各地の活動をつなげることになり、今後が期待されます。

海上イベントゾーンでは、ハゼ釣り教室を実施していましたが、ポートやサップレースの乗船体験は、風で中止になったとのことでした。天候に左右される体験型イベントの難しさも感じ、勉強になった1日でした。
(文責：横山清美)



美里市民農園体験セミナー参加報告

11月22日～23日の休日を利用して1泊2日の市民農園体験セミナーのモニターツアーに参加しました。このセミナーは、山梨県南巨摩郡早川町三里地区にある「三里地区振興協議会」が事業実施主体です。南アルプスの食と農、市民農園・直売所の担い手を育成するグリーンツーリズムを実施する等のなかの一プロジェクトで「美里市民農園体験セミナー」の募集があり、千葉からは「ELCOの会」中心に17名が参加しました。

会場の「ヘルシー美里」は廃校となった木造校舎を温泉宿泊施設へ、隣接体育館は研修施設へと生まれ変わり活用したものです。

さて、当日のプログラムは耕作放棄地で農体験です。全員作業衣に着替え現地まで徒歩、この間プロジェクトリーダーから耕作放棄地の経緯を聞きながら現地着。早速、荒廃畑で、背丈の草を鎌で刈り取る班、既に整備された区画に獣害対策ネット張りの班に分かれ、それぞれ慣れない手つきで開墾作業。近くにはかつておばあちゃんたちが係わった「直売所」があるが、高齢と人口減により閉店、今は若者スタッフへ運営を任せられ再生途上とのこと、姉妹都市品川区の区民農園を核にした区域を整備し、産直・オーナー制度等も検討されているとのこと。

二日目のセミナーは体育館で開催。

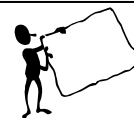
町長の挨拶や各団体の発表があり、かつてはダムと発電所建設で人口が1万人を超えていた早川町も今では日本一人口の少ない町とのこと(1125人)。

町は南アルプスの麓にあり、急峻な山々に囲まれた奥深いところで正に秘境というところ。そんな小さな町でも、地区振興協議会を結成し地域資源の活用と都会からボランティアを取込み、外部から知恵の吸収を図ったり活性化に向けた施策は「地方創生の先駆け」と感じ取れた体験ツアーでした。

(文責 萩原耕作)



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 30 —
 おききました！ この人・この団体
温暖化防止ながれやま



代表 春田育男

1. 発足の経緯

平成14年2月、千葉県地球温暖化防止活動推進員の第1期生が誕生しました。

流山市からは5名が県知事から委嘱されました。同年9月、その5名の推進員によって「温暖化防止ながれやま」が発足しました。今年で13年を経過し会員は30名となっております。

平成25年12月、地域における活動が評価され石原環境大臣より「地球温暖化防止活動環境大賞」の表彰状と盾を受賞しております。



2. 主な活動

(1) 環境講座；市民の方々を対象として市民環境講座を年4～5回開催しております。27年度は、6月「太陽のエネルギーを実感しよう！」で太陽光発電体験やソーラーカー工作など。

8月「夏休み親子エコ工作」で各種電池の学習と燃料電池車の工作など。10月「未来のために、いま選ぼう！～かしこい選択～」で住宅リフォーム、補助金制度、家電製品の買替、電力自由化などの講演と展示会。来年2月には「講演と映画」（下記）を予定しております。

(2) 出前講座；学校や団体の要請により出前講座を年5～10回ほど開催しております。27年度は、6月「向小金小学校」、「流山北小学校」、「美田自治会」。7月「おおたかの森小学校」。

9月「チャレンジ会（市民団体）」に対して開催しております。

(3) 省エネルギー学習会；省エネルギーに関する学習会を毎月開催しております。テーマはその都度話題とし、10月「東京大学（柏キャンパス）環境棟見学会」。11月は第100回記念講座「快適に暮らせるエネルギー効率の良い住環境について（慶應義塾大学 伊香賀俊治 教授）」を開催しました。12月は「我が家の省エネ実践とその現状」で開催します。参加は無料で誰でも参加できます。

授）」を開催しました。12月は「我が家の省エネ実践とその現状」で開催します。参加は無料で誰でも参加できます。

(4) 調査事業；市民CO₂削減量調査として「緑のカーテン効果」、「グリーンバス効果」、「エコドライブ効果」を調査しております。今年度からは、2つのプロジェクト（PJ）を発足しました。省エネルギーPJは、各家庭の「でんき家計簿」から省エネの実態調査をします。再生可能エネルギーPJは、学習会からスタートして活動の方向付けを検討します。また、簡易型CO₂濃度計を住宅団地内に設置してCO₂濃度変化を観測中です（24時間連続）。周囲環境などによる変化を取りまとめたいと思っております。

(5) 行政への参画；流山市環境審議会の部会委員として流山市地球温暖化対策実行計画の改定作業に参画しております。行政・商工業・市民のそれぞれの立場で議論しています。

3. これからのイベント

第4回市民環境講座を開催しますので多数のご来場をお待ちしております。

日時：平成28年2月15日（日）
13：30～16：10

会場：流山市生涯学習センター（1F）
多目的ホール

内容：講演（飯田哲也氏） &
映画（パワー・トゥ・ザ・ピープル）

4. その他

下記ホームページに活動予定や内容を掲載しておりますので、のぞいてください。

「温暖化防止ながれやま」

<http://www.na-shimin.org/w2/obn/index.html>

向小金小学校の出前講座



第1回市民環境講座
（ソーラーカーの工作）



第1回市民環境講座
（自分のパワーを確認しよう）



講演と映画の集い
 2011年3月日本太陽光協会、持続可能なエネルギーである自然エネルギーが、地球温暖化防止に大きく貢献しています。その役割の第一人者である飯田哲也先生をお招きして、市民参加による自然エネルギーの活用について、講演と映画を上映いたします。2名入の時間となっております。講座に夢のある明日を創りましょう。

～市民参加の自然エネルギーで地域づくりの大変革～
 講師 飯田哲也氏（NEDO 持続可能なエネルギー推進部 部長）
 講演 CO₂を出すエネルギーは誰と何に？
 飯田先生をお招き！
 13:35～19:00

映画 持続可能なエネルギー
 専門知識から学ばせて、ここで学ばせられ、SEPを設立。自然エネルギーは国産の第一人者としてその存在が知られており、自然エネルギーの活用による温暖化防止の役割を担っています。
 ～パワー・トゥ・ザ・ピープル～
 オランダで自然エネルギー普及に取り組む活動家や10年かけてアンナマール・ザンホッフのカーンエネルギー協会を実現した活動家などの経験や、市民参加による温暖化防止の役割を担っています。
 18:10～19:00

お申し込み締切：毎月1日午後5時迄です。30名以上は団体（電話）受付
 申し込みは、お問い合わせ先へお申し込みください。お申し込みは、お問い合わせ先へお申し込みください。
期日：平成28年2月14日（日）
13:30～16:10（開場13:00）
 会場 流山市生涯学習センター多目的ホール
 〒270-0111 流山市生涯学習センター多目的ホール
 主催：流山市 協賛：流山市生涯学習センター 協力：流山グリーンカーン普及促進協議会
 問い合わせ：環境部長 環境課 電話：04-7153-6081

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

10月運営委員会

日時 10月15日(水) 12:50~13:50
17:00~17:55

場所 千葉市生涯学習センター3F 大研修室

【報告】

- ・だより 105号印刷・発送
- ・エコメッセ2015inちば(9/23)
- ・ナガエツルノゲイトウ駆除(9/23)
- ・印旛沼流域環境体験フェア出展者説明会(10/7)

【協議】

- ・だより 106号
- ・Eポート千葉大会(10/17)
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金
- ・印旛沼流域環境体験フェア(10/24)
- ・いちほら市民大学(11/26 12/3)
- ・千葉市新宿公民館講座(11/17)
- ・エコセミナー受託
- ・エコサロン
- ・その他

11月運営委員会

日時 11月11日(水) 18:00~20:00
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・江守氏講演会(10/15)
- ・Eポート千葉大会(10/17)
- ・印旛沼流域環境体験フェア(10/24)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(11/2)
- ・手賀沼流域フォーラム全体会(10/17)
- ・東京湾大感謝祭(10/24・25)

【協議】

- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金
…学習会とワークショップ(1/31)
- ・11月エコサロン(11/25)
- ・千葉市新宿公民館講座(11/17)
- ・いちほら市民大学(11/26・12/3)
- ・エコセミナー(2/10)

お知らせ

千葉県の環境大使と守り育てる千葉県の環境

★開催日：平成28年1月27日(水)

★講演会

演題 「富士山から日本を変える」

講師：野口 健 千葉県環境大使/アルピニスト

時間 午後1:00~2:00(受付:12:00)

場所 八千代市市民会館小ホール

定員 400名(未就学児不可)

★環境大使と一緒に清掃活動

時間 午後2:30~3:30

(受付開始:午後1:50)

場所 八千代市新川周辺(受付場所:八千代市

市民会館小ホールロビー)

定員 200名(未就学児不可)

お申し込み・お問い合わせ:

千葉県循環社会推進課(Tel:043-223-4144)

主催:千葉県 共催:印旛沼水質保全協議会・八千代市

「海ごみにもなってしまう 使い捨てのレジ袋をどう減らす！」

☆日時 2015年12月19日(土)
13:30~16:30

☆場所 ハロー会議室 半蔵門(朝日ビル5F)
千代田区平河町1-2-2

☆主催 容器包装の3Rを進める全国ネットワーク

☆講演 高田秀重氏(東京農工大学教授)
朴恵淑氏(三重大学副学長)

☆パネルディスカッション

金子博氏(一社JEAN代表理事)

増田充男氏(チェーンストア協会理事)

高田秀重氏、朴恵淑氏、ほか

☆資料代 500円

☆申込み・問い合わせ先 主催者

Mail reuse@citizens-i.org

TEL 03-3234-3844

FAX 03-3263-9463

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		